



中部大学春日丘高校 SGHグローバル課題研究

令和元年度 第4回インドネシア研修の実施

● インドネシア研修の概略

2年生11人がインドネシア研修に参加しました。インドネシア研修は今回で4回目となりましたが、今年も昨年同様に「国際機関」、「企業」、「地域コミュニティ」、「現地高校」等を訪問し、多くの人々と交流しました。生徒たちは多方面から大きな刺激を受けて視野の広がる実り多き研修となりました。

◆ 研修日時

令和元年8月5日(月)～10日(土) (5泊6日)

◆ 訪問地域

ジャカルタ市、南タンゲラン市

◆ 研修目的

- ・それぞれの研究テーマを設定し、現地で課題探究学習を行う。
- ・提携校である「プナブル・ジャカルタ高校」、「南タンゲラン国立第2高校」の生徒とホームステイや文化交流を通じて友情を深める。
- ・現地の社会人や高校生と交流し、異文化理解・多文化共生の感覚を身に付け、「グローバルコンピテンシー」を高める。

◆ 研修参加者: 第2学年生徒11名 引率教員2名

◆ 事前学習 (全7回)

インドネシア研修に行く前に、事前学習を行いました。何のために研修を行うのか、どのようなことを体験したいのかを考え、訪問先について事前に調べ、質問を考えました。よりよい研修にするためには、事前の学びが重要です。また、現地で行うプレゼンテーションや、現地校の生徒との文化交流会の準備も行いました。

◆ 研修説明会の開催

6月15日(土)に、参加生徒と保護者を対象に研修説明会を開催しました。研修目的の確認とともに、治安や病気に対する対策の説明も行いました。

春日丘高校の生徒によるプレゼンの様子



高校生11人が日伊交流

愛知・春日丘 プレゼン、ホームステイ

中部大学春日丘高校(愛知春日市)の2年生11人が海外研修の一環として来伊した。現地の高校でのプレゼンテーションやホームステイを通じて、交流を深めた。

一行は8日、西ジャカルタのタンジュン・ドゥレンにある「プナブルジャカルタ高校」を訪問。春日丘高校の生徒2組と、プナブルジャカルタ高校の生徒1組が環境問題に関するプレゼンテーションを英語で行った。春日丘高校の1組目は「電力の安定供給」と題し日伊の電力事情の比較を交えながら、再生可能エネルギーの重要性などを

を説明。2組目は海洋プラスチック問題について発表。レジ袋の代わりに再生紙製の紙袋を導入したアイランドの事例などを引き合いに出しながら、プラスチックごみを出さないライフスタイル作りを呼びかけた。

プナブルジャカルタ高校の生徒は、プラスチックごみから建設用のブロックを製造する技術を発表。この技術は生徒自ら、化学の授業で開発したという。

流ちょうな英語でプレゼンテーションを行った牧野圭太さん(16)は「ジャカルタの街は、ところ狭しと生徒が選択し、公衆衛生や

インドネシアの熱気を全身で感じた。また来た」と熱っぽく話した。

プレゼン後は、春日丘高校の生徒がカルタや福笑い、茶道などの日本文化を紹介した。英語でコミュニケーションを取りながら、双方の生徒が心を開いて打ち解け合う様子が見られた。一行は国際協力機構(JICA)のプロジェクトサイトを見学後、9日に帰国した。

一行の生徒は1年の3学期からテーマに沿った課題研究と、英語によるプレゼンテーションの練習を積み重ねてきた。研究テーマは森林問題、英語教育など多岐にわたる。

春日丘高校は2015年から文部科学省のスーパーグローバルハイスクール(SGH)に認定されている。インドネシアでの研修は15年から開始し、これまで5回目。SGH認定は21年3月までだが、同校では引き続き、海外研修を継続していくという。

(高地伸幸 写真も)

魔プラ集積場で火災

東ジャカルタ

11日午後1時17分、東ジャカルタ区チラカスの魔プラ集積場では火

● 研修行程

月日	行程
8月5日 (月)	中部国際空港 出発 ～羽田経由～ ジャカルタスカルノハッタ空港 到着
8月6日 (火)	じゃかるた新聞、在インドネシア日本大使館を 訪問、完成したばかりの地下鉄に乗車
8月7日 (水)	JICAプロジェクトサイト、地域コミュニティー (南ジャカルタ)を訪問、プナブール・ジャカルタ高 校の生徒と国立博物館を見学後ホームステイ
8月8日 (木)	プナブール・ジャカルタ高校訪問 (授業体験、研究発表、文化交流会)
8月9日 (金)	南タンゲラン国立第2高校訪問 (授業体験、研究発表、文化交流会)
8月10日 (土)	ジャカルタスカルノハッタ空港 出発(直行便) 中部国際空港 到着

<主な訪問先>

*じゃかるた新聞

インドネシアに住む日本人向けに新聞を発行している新聞社です。生徒が用意した質問に対して、ひとつひとつ丁寧に答えていただき、学びを深めることができました。

*在インドネシア日本大使館

一等書記官の方に、日本とインドネシアのつながりや、日本の国際協力についてご説明いただきました。また、生徒が用意した質問に対して、ひとつひとつ丁寧に答えていただき、学びを深めることができました。

*地下鉄(日本の技術支援によるジャカルタ第1号)に乗車

清水建設が工事を請け負い、今年4月に開通した地下鉄に乗車体験しました。ジャカルタ市内の渋滞解消が期待されています。

*JICAプロジェクトサイト、地域コミュニティー、プスケスマス(診療所)

JICAが環境プロジェクトを行っている村で、「JICAが支援した公衆トイレ」、「ゴミバンク」を訪問しました。また、プスケスマスを訪問し、現地の人々の声を聞くことで、国際協力の今後の課題を考えることができました。

*プナブール・ジャカルタ高校

プナブール・ジャカルタ高校の生徒宅で1泊2日のホームステイを体験しました。物理、数学、英語の授業に参加したり、伝統文化の「バティック(ろうけつ)染め」も体験しました。別れの際に、生徒自らデザインしたバティックの完成品をいただき、思い出に残るおみやげになりました。

*南タンゲラン国立第2高校

歓迎セレモニーの後、両国の伝統ゲームを楽しみました。英語の授業では春日丘生の研究発表を聞いていただき、意見交換をしました。プナブール高校と同様に、現地の生徒たちの温かい国民性に触れました。今回の訪問により、両校それぞれ3回の相互訪問となり、交流関係がまたひとつ深まりました。



在インドネシア 日本大使館にて



地域コミュニティーの「ゴミバンク」にて



プナブール・ジャカルタ高校にて



南タンゲラン国立第2高校にて